

令和5年度米子市地方創生有識者会議 議事録

[日 時] 令和5年8月29日(火) 午後3時から午後5時15分まで

[場 所] 米子市役所4階 401会議室

[出席委員] 森田(豊)委員(座長)、高増委員(副座長)、伊藤委員、稲田委員、岡村委員、小川委員、神戸委員、齊木委員、森田(進)委員、吉岡委員
澤田オブザーバー、仲田オブザーバー

[欠席委員] 遠藤委員、竹内委員、平田委員、深田委員、中嶋隆行オブザーバー

[出席職員] 伊澤副市長、長谷川教育委員会事務局長兼こども政策課長、坂隠経済戦略課長、石田商工課長、田仲観光課長、成田スポーツ振興課長、原文化振興課長

[事務局] 八幡総合政策部長、堀口総合政策課長、遠藤総合戦略室長、高橋係長、影山係長

以下、議事概要(注:議事進行及び資料説明は省略しています)

1 開 会

2 新任委員紹介

3 副市長あいさつ

がいなロードの完成や新駅舎・新駅ビルの開業により、米子駅周辺や駅前の人流増加が見られる。他方、地方が抱える課題も山積している。米子市がどのようになるのか、またなりたいのか、本日の会議が実効のあるものになるよう最大限活かしてまいりたい。皆様の積極的なご意見を賜りたい。

4 座長・副座長選出

5 座長あいさつ

今年はコロナ禍が明け再スタートを切る年となる。米子市の地方創生の実現に向けて考えていくという役割の下、委員の皆さんの忌憚のないご意見を願いたい。

6 議 事

(1) 『米子市まちづくりビジョン』(地方創生)の令和4年度の実績について

(米子市) 資料説明(資料1~4)

(委員) 大企業の誘致を考えてほしい。物流拠点として米子IC周辺のハブ機能の拡充、県外企業に対して防災に強い米子市をPRしてはどうか。

(米子市) 企業誘致に関して防災を含む地の利を活かすことは必要と考える。労働力の確保については特に製造業の関心が高い。企業誘致は、地方における経済活動とのバランスや圏域の産業構造も併せて考えながら、引き続き取り組みたい。

(委員) 米子市人口ビジョンが国立社会保障・人口問題研究所の推計値を下回って

いるのは少し残念である。立地適正化計画については、人口密度がどれだけ増えるか、施策・戦略に落とし込んでいくべきである。まちづくりビジョンの変更についても柔軟に対応してほしい。

(米子市) 令和2年国勢調査において社会増減が大きく、市の人口ビジョンは社人研を下回る数値にならざるをえなかった。本市の人口密度は、鳥取市、松江市より高く、岡山市と同じくらい。既にコンパクトなまちである。まちのリノベーションを目指し立地適正化計画を策定している。今後は民間のインセンティブを上げていくような取組をしていきたい。

(委員) 都市圏での移住定住相談会に参加すると、ブースに来られる方はほとんどが米子市出身の高齢者でいつかは米子に帰りたいと考える方々である。ふるさと教育が必要と考える。

(市) 定年退職後の帰郷は本市としても歓迎するところである。また、ふるさと教育やふるさとへの愛着を育む事業は、本市としても重要であると考えている。

(2) 国の交付金を活用した事業の効果検証について

(米子市) 資料説明(資料5~6)

(委員) マイナンバーカードのトラブルや先行きに対する見解は。

(米子市) マイナンバーを活用したデジタル化は進めるべきものであり、遅れを取らないよう基盤を作りつつ市民の不安を払しょくして進めていきたい。

(委員) マイナンバーは様々な可能性がある。引き続き活用によるDXを進めてほしい。

(3) 意見交換

(委員)

- ・雇用面で特にIT系の採用が難しい。また、高卒で入社した社員から米子にすることができるという理由で入社したと聞いた。ふるさと教育の重要性を感じるので、ぜひ進めてほしい。
- ・トラック運転手の不足等に直面した。手や身体を動かす職種への対応も考えてほしい。
- ・帰郷者は、空き家、働き手不足等の課題解決につながる可能性がある。シニアの移住、米子版CCRCについて検討してはどうか。
- ・海、温泉、医療といった米子の強みや独自性をまちづくりに活かすべきである。サイクルツーリズムでは、レンタル自転車を乗り捨てできるシステムが構築できるといい。
- ・ヤングケアラー、ヘルパー派遣への対応をお願いしたい。今後介護離職が年10万人と想定される中、福祉に強いまちとしてPRできると思う。ぜひ力を入れてほしい
- ・市の観光PRやその方法が十分とは言えない。おもしろいことをされるが、それが人の流れにどうつながっているか再考してほしい。

- ・まちづくりシンポジウムや加茂川まつりに参加した中高生が輝いていた。参加した子どもたちは地域の良さを実感したことだろう。活動に携わった子どもたちは、体験・学習を通して郷土愛の醸成がなされる。ぜひ戦略的にこのような取組を進めてほしい。
- ・米子駅のリニューアルを契機に公共交通について考えることが増えた。ここ1年は意識的に公共交通を使うことにしている。公共交通事業者に対して年間2億円の赤字補填をしているが、市内の13歳以上が1カ月に1回以上使うとこの2億円がペイできる。歩くイコール公共交通を使うことであり、公共交通は使わなければならない。フレイル対策やスロー生活を勧めるなどして公共交通の利活用促進を図ってほしい。
- ・取引先で人手不足の問題を耳にする。他方、20~40代の大人の引きこもりの問題もある。市としてのサポート、引きこもりの方を労働市場に出す方策等について考えてほしい。また、シングルマザーの方が働きやすい、例えば保育の送迎サービスなどのサポートがあるといい。
- ・市の取組はスピーディーでいいまちづくりをしようという姿が見える。がいなロードについては、インバウンドやウォーカブルを絡めた積極的な活用をしてほしい。また、住民の方に対してフレイルへの理解を広めることが必要と考える。人口については、他と比較すると悪くないと思っている。
- ・歩いて楽しいまちづくりに関連して、広い歩道に座れるところがあり、利用者が椅子を一時的に置くなど、近所の人どうしがコミュニケーション取れる環境があるといいのではと考える。また、子育てや教育にはもっと力を注ぐべきである。子どもの医療費や給食費の無償化、またお金をかけるだけではなく子ども自らの実践を教育に活かしてほしい。子育て施策のわかりやすい発信も必要と考える。耕作放棄地、空き家、空き店舗の増加を懸念している。
- ・米子・境港の高規格道路はこの地域には欠かせない。ぜひ熱意を持って対応してほしい。

(市)

- ・製造業やものづくり分野は本市にとって大事だと考えている。チャレンジしたいと考えている。米子IC周辺の工業団地は3区画すべて埋まり、今後次の工業団地の造成を図りたい。
- ・高齢者の移住については声を聞いている。労働力の補完についてはそのとおりである。他方、生産年齢人口の確保も必要と考えている。
- ・引きこもりの問題は複雑でありアクセスが難しい。アウトリーチ型の相談支援など研究してみたい。
- ・本市の特色を活かしたまちづくりという認識は市としても同じである。サイクルツーリズムは今後のインバウンドも視野に歩調を合わせながらやっていきたい。
- ・ヘルパー派遣については9月から派遣を始める予定である。

- ・歩いて楽しいまちづくりについては、現在環境を整備している。どういう人がどう使うのかが課題であると考えている。
- ・観光 PR については市も同じ課題認識を持っている。引き続き努力が必要であると考えている。
- ・まちづくりシンポジウムや加茂川まつりでは、子どもが自分で考えて発表しておりとても良かった。子どもが自ら考え研究して発表する探究活動、子どもがまつりのプレイヤー（提供側）になることは子どもたちの将来にとってもとても良いと考える。
- ・公共交通を活かすためには、住民のライフスタイルに取り込むことが必要である。そのためには“皆が使えば”という視点を市民に伝えることが必要と考える。
- ・子どもの医療費は、令和 6 年 4 月から無償化を予定している。給食費については財源が多岐で難しいという認識を持っている。
- ・米子・境港の高規格道路については、このたび設立された 8 の字ルート整備推進会議で主要課題として取り組む予定である。

7 その他（特になし）

8 閉 会